

平安時代	
1000 頃	『枕 草子』
1008 頃	『源氏物語』
12c	『今昔物語集』
1185	平家滅亡
鎌倉～室町時代	
1205	『新古今和歌集』
1212	『方丈記』
1235 頃	『小倉百人一首』
13c 頃『平家物語』	
1331 頃	『徒然草』
1338	室町幕府開かれる
1600	関ヶ原の戦い
江戸時代	
1603	江戸幕府開かれる
1685	生類憐みの令
1694 頃	『おくのほそ道』

平家物語 平家一門の栄華と没落の歴史を描く。前半部では、平清盛が保元の乱

(一一五六年)と平治の乱(一一五九年)に勝利し、武士の出身で初めて太政大臣になる。平家一門は栄華を極めるとともに、それに反発する勢力が平家を倒そうと策謀する。後半部では、源頼朝などの反平家勢力が各地で挙兵し、源平の合戦を経て、壇の浦の戦い(一一八五年)で平家は滅亡する。「敦盛の最期」は、一一八四年二月に起きた、一の谷の戦いの中できごとである。海と山が迫る海側に平家が陣を構えたところへ、源義経の軍が山側から駆け下りる奇襲によって平家の軍陣を破る。海中の舟に向かって逃げる武者が平敦盛であった。

平家物語

参考資料

釈迦が沙羅双樹の下で没する情景を描いた図を「涅槃図」といいます。一般に、釈迦が頭を北、顔を西、右脇を下にして臥し、周囲に諸菩薩や仏弟子や動物たちが集まって悲嘆にくれるさまを描いたものです。「涅槃絵」ともいいます。



(奥村政信画／江戸時代中期の作品／国立国会図書館デジタルコレクション)